

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：上勝町・かみかつ茅葺き学校

## 事業名称1：山の資源を活用した「かみかつ茅葺き学校」の実施

あらすじ

【②地域課題：集落の形は残るが、昔の暮らしをする必要がなくなったことにより、山の荒廃、耕作放棄地の増加、生物多様性の低下】という問題に対し、【③昔の暮らしに備わる、身近にある資源でモノをつくる、再生可能な資源で暮らす知恵や技術は、持続可能な社会づくりに求められる要素であり、上勝町のゼロ・ウェイストの考え方に通じる】ため、【⑥地域住民、地域コーディネーター】が「かみかつ茅葺き学校」を行います。これは、【④集落の伝統的技術で再生した「かやぶき民家」と伝統的な知恵・技術の持ち主】を使った、【⑤都市部の住民を対象とした昔の暮らし体験プログラム、匠体験プログラムの提供、茅葺き民家での豊かな時間の提供（貸館）】です。

この事業を行うことで、地域に【⑦集落ファンが増加し、地域住民の移住者受け入れ意欲が向上するとともに、体験プログラムの実施が耕作地の増加、山の生態系サービスの向上】が起こり、【⑧移住者受け入れの基盤整備、山の生態系サービス向上】となり、【①集落の暮らしを伝える場ができ、そこに参加する仲間が集落の日常の仕事を支援し、里地・里山の小さな自然再生】につながります。

ストーリー

かみかつ茅葺き学校は、山の資源を活用し、集落の伝統的な知恵、技術を持つ集落住民が講師となって、都市住民にプログラムを提供するものです。親子体験プログラムで実施する、むかしながらの農業体験、囲炉裏での火起こし、かまどごはんづくりなどは、幼児を持つ親世代に好評で、リピーターとなる確率が高いです。親子体験プログラムのリピーターが、次は独自に施設を借りて、友人たちと昔暮らし体験を楽しむ、という展開に期待しています。次にかみかつ茅葺き学校の匠仕事体験プログラムは、山仕事や茅葺き屋根など昔ながらの力仕事、技術仕事を担うプログラムです。ここでは、地域貢献をしたい、技術を活かしたい、引退組のお父さん世代をターゲットとしています。彼らは平日も作業ができるので、平日少人数での募集、受け入れをし、必要な仕事の支援をしていただきます。このように、親子体験プログラムは、集落のファンづくり、口コミ利用者の種まき作業として、匠体験プログラムは、仕事を担える、固定的な集落支援者づくりとして進めていきます。さらに、新たなプログラムとして、「八重地応援隊」というしくみをつくり、八重地集落の日常の小さな仕事を見える化し、プログラムとして人を受け入れ、集落の日常の小さな仕事を担えるようにします。かみかつ茅葺き学校では、活動を通して、山の資源を活用するとともに、体験プログラムと、仲間づくりによる棚田等の維持管理、将来的には山の自然再生活動への展開を目指しています。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の暮らしを伝える場ができる</li> <li>・集落の日常の仕事を支援する仲間ができる</li> <li>・里地・里山（山、棚田、集落）の小さな自然再生ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山、棚田等、地域資源が民有地であり、所有者の合意形成が必要</li> <li>・昔の暮らしを知る人材（伝統的な知恵・技術の持ち主）の高齢化</li> </ul>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の暮らしをする必要がなくなった（身近にある資源でモノをつくる、再生可能な資源で暮らす）</li> <li>・山の荒廃、耕作放棄地の増加、生物多様性の低下</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の暮らしに備わる、身近にある資源でモノをつくる、再生可能な資源で暮らす知恵や技術は、持続可能な社会づくりに求められる要素であり、上勝町のゼロ・ウェイストの考え方に通じるため。</li> </ul>	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の伝統的技術で再生した「かやぶき民家・八重地花野邸」</li> <li>・伝統的な知恵・技術の持ち主</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部の住民を対象とした、昔の暮らし体験プログラムの提供</li> <li>・都市部の住民を対象とした、匠体験プログラムの提供</li> <li>・茅葺き民家での豊かな時間の提供（貸館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</li> <li>・集落リーダー</li> <li>・他集落の技術・知恵の持ち主</li> </ul>
⑥担い手（Who）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民</li> <li>・地域コーディネーター</li> </ul>	
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験・匠プログラム提供→集落ファンの増加→地域住民のモチベーション向上→移住者受け入れ意欲の向上→移住者受け入れ準備の推進</li> <li>・農業体験プログラム提供→耕作地維持→棚田景観の維持＝生態系サービス向上</li> <li>・暮らし体験プログラム提供→山の資源活用＝ゼロ・ウェイストな暮らし方の発信</li> </ul>	
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的成果：集落ファンの増加</li> <li>・長期的な成果：移住者受け入れ基盤の醸成、山の生態系サービス向上</li> </ul>	

## 事業名称 2 : ゼロ・ウェイトタウン上勝でのパッケージプログラムづくり

### あらすじ

【②集落の暮らしの知恵や技術が見える化できていない、集落とハブ拠点をコーディネートする機能がない】という問題にこまっており、【③ゼロ・ウェイトのブランド力を活用し、集落に人の流れをつくり、お金を落とすしくみをつくるため】、【⑥地域住民、地域コーディネーター、ハブ拠点の担い手】がゼロウェイト上勝パッケージづくりを行います。これは、【④上勝ブランド、既存の町外訪問者の受け入れプログラム】を使った【⑤かやぶき民家・八重地花野邸における貸館の推進、随時受け入れられる体験プログラムの提供】です。

この事業を行うことで、【⑦集落内での体験プログラムニーズ増による関係人口増、上勝パッケージプログラムの実施による、発信力の向上と利用者増】が起こり、【⑧他主体による発信力強化、体験プログラム提供による収益増】となり、【集落の暮らしの価値が再認識され、集落の暮らしに賛同する人が集落を訪れる】ことが可能になります。

### ストーリー

上勝パッケージづくりは、上勝町に既存の活動、施設、人材を活かし、そこに集まる人とお金を集落につなぐ取り組みです。例えば、上勝町の地域戦略の柱の一つである、「ゼロ・ウェイトブランドを活用した循環型まちづくり」に整合する、茅葺き学校の価値を明確にし、上勝町ゼロ・ウェイトセンター-WHYと連携した体験プログラムが提供できます。これによって、いままで集落まで来ることのなかった上勝来訪者層に、集落に来てもらうことが可能となります。茅葺き学校の目指す豊かな暮らしは、「身近にある資源でつくる、再生可能な資源でつくる暮らし、助け合う暮らし」であり、究極のゼロ・ウェイトの思考であると言えます。茅葺き学校では、このようにゼロ・ウェイトと連携した上勝パッケージづくりを進めると同時に、集落の受け入れ体制、施設の整備をすすめます。かやぶき民家・八重地花野邸は集落のシンボルとして整備をし、体験プログラム提供の場として活用します。茅葺き学校の関係者が、自宅で民宿の開業に向けて手続きを進めており、令和3年度には、集落内での滞在が可能になるため、受け入れ対象の幅が広がります。将来的には、ゼロ・ウェイトをキーワードに集まる外国の訪問者に、日本の伝統的な暮らしの価値を伝えることができます。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の暮らしの価値が再認識される</li> <li>・集落の暮らしに賛同する人が集落を訪れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落からの情報発信力の弱さ</li> <li>・かやぶき民家・八重地花野邸をおよび周辺の施設整備の費用</li> </ul>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の暮らしの知恵や技術が見える化できていない</li> <li>・集落とハブ拠点をコーディネートする機能がない</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロ・ウェイトのブランド力を活用し、集落に人の流れをつくり、お金を落とすしくみをつくるため</li> </ul>	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上勝ブランド (ゼロ・ウェイト)</li> <li>・既存の町外訪問者の受け入れプログラム (上勝テロワール、INOUEプロジェクト等)</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かやぶき民家・八重地花野邸における貸館の推進</li> <li>・随時受け入れられる体験プログラムの提供 (自由に体験できるよう、囲炉裏の火起こし、かまどごはんの作り方など、動画を作成し利用者がスマホで見えるようにするなど)</li> </ul>	
⑥担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民 ・地域コーディネーター ・ハブ拠点の担い手</li> </ul>	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸館の推進→集落内での体験プログラムニーズ増→関係人口増</li> <li>・上勝町内連携→上勝パッケージプログラムの実施→発信力の向上→利用者増→収益増→連携の加速化</li> <li>・体験プログラムの随時受け入れ→集落活性化→山の資源活用機会増→収益増→体験プログラムの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスパートナー</li> <li>・YouTuber (インフルエンサー)</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的成果：他主体による発信力の向上</li> <li>・長期的成果：体験プログラムの提供増による収益増</li> </ul>	

事業名称 3 : 協働の仲間づくり		
あらすじ		
<p>・【②集落の過疎高齢化により、山・棚田・集落の仕事が十分できない、集落に新たな経済活動が生まれない。】という問題に困っており、【③里地・里山環境の維持・再生により、集落の魅力が向上する、茅葺き学校を持続するための、経済活動を創出する】ため、【地域住民、地域コーディネーター、移住者、スポンサー】が協働の仲間づくりを行います。</p> <p>これは、【④にほんの里100選の美しい集落であること、茅葺き民家・八重地花野邸、地域住民、かみかつ茅葺き学校】を活かした、【茅葺き学校のリピーターをつなぐための定期的な情報発信、集落の日常の農作業や暮らしの支援をする、「八重地応援隊」結成、ビジネスパートナーとの協働】です。</p> <p>この事業を行うことで、地域に【⑦集落の担い手候補の育成、集落の労働力補完】が起こることで、【⑧集落の受け入れ意欲の向上に伴う、空き家空き地活用の可能性向上】となり、【①集落の営みを支える多様な仲間ができ、集落の空き家、空き地を活用した集落ビジネスができる】につながります。</p>		
ストーリー		
<p>協働の仲間づくりは、「山のめぐみを活かし、集落と都市がつながり、持続可能な集落の実現」に向けて、茅葺き学校が実現したいことだけでなく、次のステップへアイデアを出せる人材、担える人材も含めた仲間づくりを目指すものです。ただし、誰でもいいのではなく、茅葺き学校の活動の根っこにある大切にしたい価値観を共有できる仲間を増やそうとしています。そのためには、茅葺き学校の活動の賛同者を町内外につくり、彼らへの定期的な情報発信や、「八重地応援隊」の多様な支援メニューを提案し、担い手になってもらうことが必要です。「八重地応援隊」による集落の労働力の補完等により、集落住民との顔の見える関係性の構築が可能となり、集落住民の受け入れ意欲の向上が期待できます。集落住民の受け入れ意欲の向上は、集落内の空き家、農地の活用可能性も高まります。空き家、農地の活用可能性が高まれば、上勝パッケージの受け入れ基盤の強化につながり、人とお金の流れの活性化効果が期待できます。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の空き家、空き地を活用した集落ビジネスができる</li> <li>・集落の営みを支える多様な仲間ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の合意形成、受け入れ体制が整備できていない</li> </ul>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の過疎高齢化により、山・棚田・集落の仕事が十分できない</li> <li>・集落に新たな経済活動が生まれない。</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里地・里山環境の維持・再生により、集落の魅力が向上する</li> <li>・茅葺き学校を持続するための、経済活動を創出する</li> </ul>	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にほんの里100選の美しい集落 ・地域住民</li> <li>・茅葺き民家・八重地花野邸 ・かみかつ茅葺き学校</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茅葺き学校のリピーターをつなぐための定期的な情報発信</li> <li>・集落の日常の農作業や暮らしの支援をする、「八重地応援隊」結成</li> <li>・ビジネスパートナーとの協働</li> </ul>	
⑥担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民 ・地域コーディネーター ・移住者 ・スポンサー</li> </ul>	
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーターへの定期的な情報発信→茅葺き学校のファンの固定化→集落の担い手候補の育成</li> <li>・八重地応援隊の実施→集落の労働力補完→集落の受け入れ意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落内の地域リーダー</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的成果：リピーターの固定化</li> <li>・長期的成果：集落の受け入れ意欲の向上、空き家活用の可能性向上</li> </ul>	